人を対象とする生命科学・医学系研究に関する情報公開文書

第 1.0 版　2026 年 7 月 5 日 作成

この研究の詳細についてお知りになりたい方は、下欄の問い合わせ担当者まで直接お問い合わせください。なお、この研究の対象に該当すると思われる方の中で、ご自身の診療情報をこの研究に使ってほしくないと思われた場合にも、下欄の問い合わせ担当者までその旨をご連絡ください。

≪試料・情報の利用目的及び利用方法≫

●研究の名称

白内障手術における焦点深度拡張型単焦点眼内レンズと単焦点眼内レンズの他覚乱視量と自覚乱視量の乖離に関する後ろ向き観察研究

●研究の対象

2019 年 1 月 1 日から 2026 年 7 月 31 日までに浜松医科大学医学部附属病院眼科で白内障手術を受け、DIBOOV（TECNIS Eyhance）又は DCBOOV（TECNIS monofocal）眼内レンズを挿入された方

●研究の目的

白内障手術後には、機械で測定される乱視が少し残ることがあります。ただし、機械で測定される乱視量と、患者さんが実際に自覚する乱視量は必ずしも同じではありません。DIBOOV 眼内レンズは、通常の単焦点眼内レンズ（DCBOOV）と比べて少し広い範囲にピントが合いやすい設計を有しており、残った乱視を自覚しにくくする可能性があります。

この研究では、DIBOOV 眼内レンズと DCBOOV 眼内レンズを挿入された患者さんの手術後の診療情報を比較し、機械で測定された乱視量と自覚的な乱視量の差を調べることで、白内障手術後の見え方に関する知見を得ることを目的とします。

●研究の期間

研究機関の長による実施許可日から 2029 年 3 月 31 日まで。

●利用又は提供を開始する予定日

研究機関の長による実施許可日。

●他の機関に提供する場合には、その方法

この研究では、外部の研究機関へ試料・情報を提供しません。

≪利用し、又は提供する試料・情報の項目≫

●研究に使用する試料・情報

この研究では、通常診療で得られた診療情報のみを使用します。血液などの試料は使用しません。

分類	使用する情報
患者さんの背景	年齢、性別、手術を受けた眼、手術日等
手術に関する情報	挿入された眼内レンズの種類、眼内レンズ度数、目標屈折、術中・術後合併症の有無等
検査結果	裸眼視力、矯正視力、機械による屈折検査、自覚的屈折検査、等価球面度数、眼

	軸長、角膜乱視、OCT 所見等

カルテ番号等、個人を照合するために必要な情報は院内で厳重に管理し、解析や発表に用いるデータからは氏名など個人を直接特定できる情報を削除します。

≪利用する者の範囲≫

●機関名および責任者名

研究機関：浜松医科大学医学部附属病院 眼科

研究責任者：兼子裕規

≪外国にある者に対する試料・情報の提供≫

この研究では外国にある者へ試料・情報を提供しないため、該当しません。

≪試料・情報の管理について責任を有する者の氏名又は名称≫

国立大学法人浜松医科大学

≪試料・情報の利用又は他の研究機関への提供の停止（受付方法含む）≫

あなたの診療情報を研究に使用することを望まない場合には、下記の問い合わせ先までご連絡ください。ご連絡をいただいた場合には、可能な限り速やかに使用を停止します。ただし、すでに個人が特定できない形で解析済み又は学会・論文等で公表済みの場合には、対応できないことがあります。

≪資料の入手または閲覧≫

この研究の計画や方法については、ご希望に応じて資料の閲覧ができます。閲覧を希望される場合は、下記の問い合わせ先までご連絡ください。ただし、他の研究対象者の個人情報や研究の独創性に関わる内容など、開示できない場合があります。

≪情報の開示≫

あなたご自身の研究に関する情報の開示を希望される場合は、他の研究対象者に不利益が及ばない範囲で対応します。研究全体の結果は、学会発表や学術雑誌への投稿により公表する予定です。公表時には、個人が特定される情報は含めません。

≪問い合わせ先≫

〒431-3192

浜松市中央区半田山一丁目 20 番 1 号

浜松医科大学医学部附属病院

部署名：眼科

担当者：青島 周太

E-mail：shuta.a@hama-med.ac.jp